

【取組の目的、内容】

本校のこれまでの複合・学際的技術者教育を進展させるため、本校、地域機関、大学や他高専などの担当による数コマ（1コマは50分）程度の「授業モジュール」を機能的に組み合わせた「技術教育パッケージ」を構築する。学生は、このパッケージをメンター教員との協働の下で、学習履歴等を確認しながら、自分自身のキャリア実現に向け主体的に構成し選択する。これらを通して、新分野の開拓や展開能力を備えた人材を機動的に育成できる。技術教育パッケージについて学生の満足度評価や達成度評価を行い、第4期でのさらに機動性の高い専門教育活動を推進するとともに、技術教育パッケージの単位化の検討やパッケージのコース拡大・展開を進める。

【実施体制】

《ニーズ》(a) 先端技術の牽引人材の育成
(b) 地域での活躍人材の増大

《方法》技術教育パッケージによる人材育成

高専機構MCCを含む到達目標を育成すべき人材像（ディプロマ・ポリシー）に則して設定

(1)授業モジュールの設計

本校教員等による数コマ（1コマ50分程度）の複合・学際的な学習内容

(2)技術教育パッケージの構成

学生がメンター教員と協働して主体的に構成

①コース型：学科横断教育研究コースに必要な知識・スキルや能力に対応したいくつかのパッケージ群

②選択型：キュアリア形成や到達目標に対応してモジュールを適切に組み合わせたパッケージ

(3)学生の満足度の評価・分析

(4)学生の到達度のパフォーマンス評価

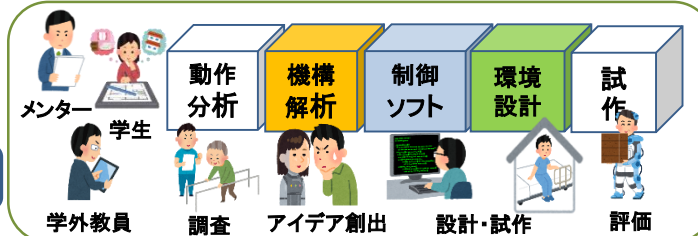
メンター教員と学生による成長を促す対話的な質的評価

AP事業
グローバル事業

学習履歴を管理
(キャリアシステム)

○コース型教育パッケージの例（体験&デザイン教育研究コース）

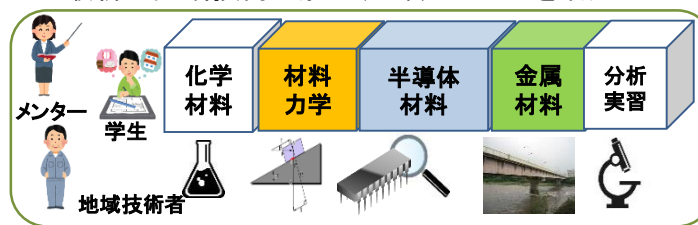
体験を通じて、知識・スキルを定着・まとめられる



<導入設備> 高機能旋盤、IoT端末/ AI演習用設備等

○コース型教育パッケージの例（先端技術教育研究コース）

最新の先端技術に触れ、知識・スキルを活用できる



<導入設備> 分光分析装置、建築試作部材等

【工程表】

H30.06 ~	<ul style="list-style-type: none"> ● 2つのコースの設置 ● 授業モジュールの設計
H30.09 ~	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術教育パッケージの構成・選択 (学生・メンター教員)
H30.12 ~	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術教育パッケージの実践 ● キャリアシステム上に学習履歴登録 (学生・メンター教員) ● 学生の満足度の評価・分析 ● 学生の到達度のパフォーマンス評価
H31 ~	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術教育パッケージの検証・単位化の検討 ● コースの拡大の検討

【成果指標】

- (1) 自主参加型の課外実習等により、技術系コンテストの参加学生数の増加：38名(H28~H29平均) → 60名(H30)
- (2) 技術懇談会等を通じた地域技術者交流を促進し、学生の学外技術発表件数の増加：6件(H29) → 20件(H30)
- (3) 取組の直接的な目標指標 (a)教員側の提供数 30モジュール(H30) (b)学生側の受講数 240コマ(H30) (H29はいずれも0件)
- (4) 学生の満足度評価の目標値 75% (H30)

【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

- 学科を縦・横断した内容重視の機動的な教育方法・体制の構築と深化，地域企業との協働で，より実践的な課題解決に向けた教育研究の実施，大学学部や研究科との連携による実理的な教育を実現。
- 技術教育パッケージの評価の検証と単位化検討、技術教育パッケージのコース拡大（化学系，社会基盤等）検討。
- 中長期にわたる成果指標として，学生の学外技術発表件数の増加：37件（H28~H29実績）→ 60件（第4期末）

教務主事室教員

- 授業モジュールの設計
- コース型技術教育パッケージの提示
- メンター教員によるガイダンスの支援
- 学生の選択受講の支援
- 大学教員・地域企業技術者等への連絡・調整
- キャリアシステムへの記録(学習履歴)
- 学生の満足度の評価と分析
- 学生の達成度のパフォーマンス評価
- 事業の広報活動

事業実施における副次的効果

- 学内横断のコースの設置
- 広報活用による小中学生の高専認知度の向上
- 学生の教育活動の評価手法の検討
- 学生の教育活動内容の単位認定化の検討
- 技術教育パッケージのコース拡大の検討

